

# 清武町立加納中学校の学力向上への取組

## 1 平成17年度の本校の学力調査結果及び意識調査結果から見た課題

### (1) 学力調査結果からの課題

- 書く力や読む力の育成
- 文章記述で解答したり、説明したりする能力の向上
- 資料やグラフから適切な情報を読みとる能力の向上
- 数学的な表現や処理能力の向上
- 数量の関係を式で表現する力の育成
- 観察や実験の時間の技能の向上
- 英語における表現力の向上

### (2) 意識調査結果からの課題

- 見直しや確かめをすることの習慣化
- 掃除・ボランティア活動へ積極的に参加する態度の育成

## 2 学力向上へ向けた課題解決への具体的な取組

### (1) 学力向上に向けた経営方針

開校以来築き上げてきた向上・向学の精神のもと、自信をもち主体的に生きる力を育てる学習指導の展開に努める。先人に学び地域に根ざした学習に意欲的に取り組み基礎学力を高め、一人一人の能力・適性に応じて可能性を最高に開発する教育を実践する。そのために、

- ① 特色ある教育課程の実施と改善をする中で、一人一人を大切にする学習指導の改善に取り組んでいく。
- ② 基本的な学習習慣や態度を指導する中で、少人数指導やわかる授業等の指導方法の改善と基礎・基本を身に付ける教科指導の改善を行う。
- ③ 主題研究との関連を図り、生徒相互が学び合い伸ばし合う学級集団の育成に取り組む。

### (2) 教育課程内の取組

#### ① 基礎学力の向上を図る授業の実践

##### ア 学力調査結果の課題に基づく指導の工夫

夏季休業中に行った学力調査結果の分析を生かして、各教科で重点目標を定めた授業実践を行い、学力調査結果からわかった課題の解消を目指す。各教科において課題に対応する指導方法を工夫するとともに小テスト、夏休み課題テスト、中間テスト後の定着確認を行うなど、基礎学力の定着を図る。

##### イ アンケート実施による生徒の実態把握

10月下旬と学期終了時に学習への意欲や態度についてアンケートを実施し、生徒の変容の把握を行った。アンケートの内容は、教科への興味・関心、授業の学習内容の理解度、宅習内容や宅習時間の変化などに関することとする。その結果を分析し、2学期の生徒の取組や教師の授業の反省の在り方の反省をし、3学期の授業に生かすようにした。

##### ウ 学業指導週間の設定

宮崎県の実施した「小・中学校学力調査」結果の意識調査分析から判明した本校の課題を生徒に提示し、その中から、生徒自らが現在の問題点としてとらえている課題を洗い出して、学力向上の基となる学習態度の向上を図ることとした。各学年ごとに学習の取組の目標を設定し、2週間の学業指導週間の中でその改善を目指すようにする。

指導週間の指導を定期的実施し、学業や学校生活の環境がよりよくなるように生徒会の自主的な活動を活性化させながら学力向上の指導に取り組んでいく。

[具体的な方法]

- (ア) 「小中学校学力調査」の意識調査結果による課題項目の分析。
- (イ) 課題項目をもとに、学習部によるアンケート調査内容の絞り込み。
- (ウ) 各学年のプログラム委員会（学級委員長の会）による具体策の決定。

## エ 校内主題研究と関連した教職員の共通実践

学校の研究主題である「学びあい、認めあい、共に伸びようとする生徒の育成」を目指す上で、学習内容への関心を高める発問や教材の工夫を行い、生徒が分かる授業、主体的に活動する授業などの指導の改善に努める。また、お互いが学習者として学び合い、伸ばし合うために、意見をよく聞き、考え方を認め、自分の意見を発表し合うなど、生徒が分かり合い、学習内容の深化を図る授業を実践する。

### (3) 教育課程外の取組

- ① 昼休みや放課後などに個別指導を行い、基礎学力の定着を図る。
- ② 週末課題という名称で、教科担当教師が課題プリントを準備し、金曜日に家庭学習の課題として生徒に持たせ、翌週に解答するなどの学習習慣育成の工夫を行う。

### (4) 保護者・家庭、地域との連携

#### ① 保護者・家庭との連携

「教科の勉強法」という各教科の宅習のやり方を示したプリントを作成し、各家庭に配布する。また、定期テスト時に学級通信を使って、宅習方法を保護者にも連絡し、家庭での指導に役立ててもらおうようにする。

## 3 成果と課題（今後の取組を含む）

### (1) 成果

#### ① 生徒の変容

- ・ 「学力調査結果」の分析から実態を知ること、学習への意識付けや課題の理解をすることができた。
- ・ 学力の実態をもとに、アンケートや努力事項を設定することで、課題を明確にした対策を考えるなどの活動ができた。
- ・ 課題テスト、再テストなどの実施により、学習内容を定着することの大切さを意識できるようになった。
- ・ 学び合う学習風土や伸び合う学習の在り方が学力向上に大切であることを意識するようになった。

#### ② 教師の変容

- ・ 「学力調査結果」の分析から指導重点事項や課題を明確にすることができた。
- ・ 指導内容の定着を図る指導方法の工夫や学習集団の在り方、教師の共通実践の大切さを意識するようになった。
- ・ 指導方法の改善に努め、よりよい授業を目指す工夫改善を全職員で取り組めるようになった。

#### ③ 取組の波及効果

- ・ 家庭との連携や小学校との共通研修など学力向上への取組の理解と実践を広げることができた。

### (2) 課題

- ① 学習は、自宅学習まで充実してこそ効果があるものである。学習習慣育成の指導を一層進め、自主的な学習態度の確立に努める。
- ② 一人一人を大切に、相互が伸びあう学習環境の一層の整備・充実に努める。